

三重県内の小中学生を主な対象とした海事施設などの見学会を実施
～故郷の海を愛する会 海から始まる物語 IN 2017～

当協会は、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、7-8 月の夏休み期間に、初めての試みとして鳥羽商船高等専門学校の OB の方々が中心となって活動されている NPO 法人 故郷の海を愛する会と共催で、三重県内小中学生を対象に見学会を開催しました。各見学会概要は以下の通りです。

【JMU 造船所見学と鳥羽商船高等専門学校の練習船で体験航海】

開催日：7 月 27 日（木）／参加者数：61 名

まず 2 台のバスに分乗し JMU 津造船所構内で大型船 LNG 船の建造工程を見学し、ドックゲートではバスを降りて、巨大船を目の当たりにした子供たちは歓声を上げていました。

その後、屋内の会場に移り、造船所の方から造船所の歴史や建造した船、LNG の説明を受けるとともに、何故船が浮くのかなどのお話に子供たちは興味深く聞き入っていました。また、船の材料となる厚い鉄板を持ち上げるなど貴重な経験ができました。



午後から造船所のポンツーン（浮棧橋）に接舷している鳥羽商船高等専門学校の練習船「鳥羽丸」に移り体験乗船しました。練習船では故郷の海を愛する会の会員である水先人の方から説明を受けながら伊勢湾を航行する大型船を見学しました。更に操舵室など船内の至る所を見学したほか、ロープワークなどの体験をしました。

子供たちは造船所見学及び体験航海を通じて充実した夏休みの 1 日を過ごしました。



【四日市港の見学と火力発電所の見学】

開催日：8月22日（火）／参加者数：82名

四日市港ポートビルの展望展示室「うみてらす14」を訪問し、映像資料にて四日市港の役割や船による輸送が人々の暮らしを支えていることへの理解を深めました。その後、90mの高さの館内から四日市港を展望し、停泊しているコンテナ船や自動車専用船、鉱石船等を見るとともに、その役割を同施設スタッフより説明を受けました。また、館内設置の操船シミュレータには沢山の子供が列を作り、船長体験を楽しんでいる様子でした。



さらに、港内巡視船「ゆりかもめ」に乗船し、実際の船を間近に、その船によって運ばれてきた輸入品がどのように暮らしに活用されているかなどの説明を受けながら、港内を航行しました。乗船中にはコンテナ船や石炭船、自動車専用船等のほか、ガントリークレーンや貯炭場等の設備や施設を海側から間近に見ることができました。

最後に、中部電力「川越火力発電所」および「電力館テラ46」を見学し、同発電所の燃料であるLNGは海外から船によって運ばれているなどの説明を受け、船が日々の生活に必要な不可欠であることを学ぶ機会となりました。



当協会は引き続き会員会社や関係団体と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。